

# 東方少女を

本番&フェ○チオ 差分込み90枚!



狩

り

ま

く

れ!

毎晩東方の○リキャラでシコシコしてる○リコン  
であるあなたは、ある日時空の狭間に飲み込まれ  
幻想郷という異世界に迷い込んでしまいました。

「デュフフwww ここには○リキャラがいっぱいw  
ようしw 犯すぞお〜！」

欲望むき出しの○リコンの下半身が、今！暴れだす！



「うはw 早速一人目ゲット！ 早速セックスするゾ♪」  
「んにゃ？ お兄さん誰・・・？」



「ほら！ 君の処女膜壊しちゃうよ！」

「にゃん？ え！ ちょっと 痛あー！」





「はあ……あああ！ イク！ イクぞお！ ボクの精子を  
受け取ってくれえー……！」

「はいやあああああああああ……！」



「うは……！ ど…童貞卒業できたぞ…  
君のおかげだ！ ボク嬉しいなあ♪」  
「ふにゃあああ…交尾しちゃったよう…」



「うっ...うっ... 苦しい、臭いよおー」

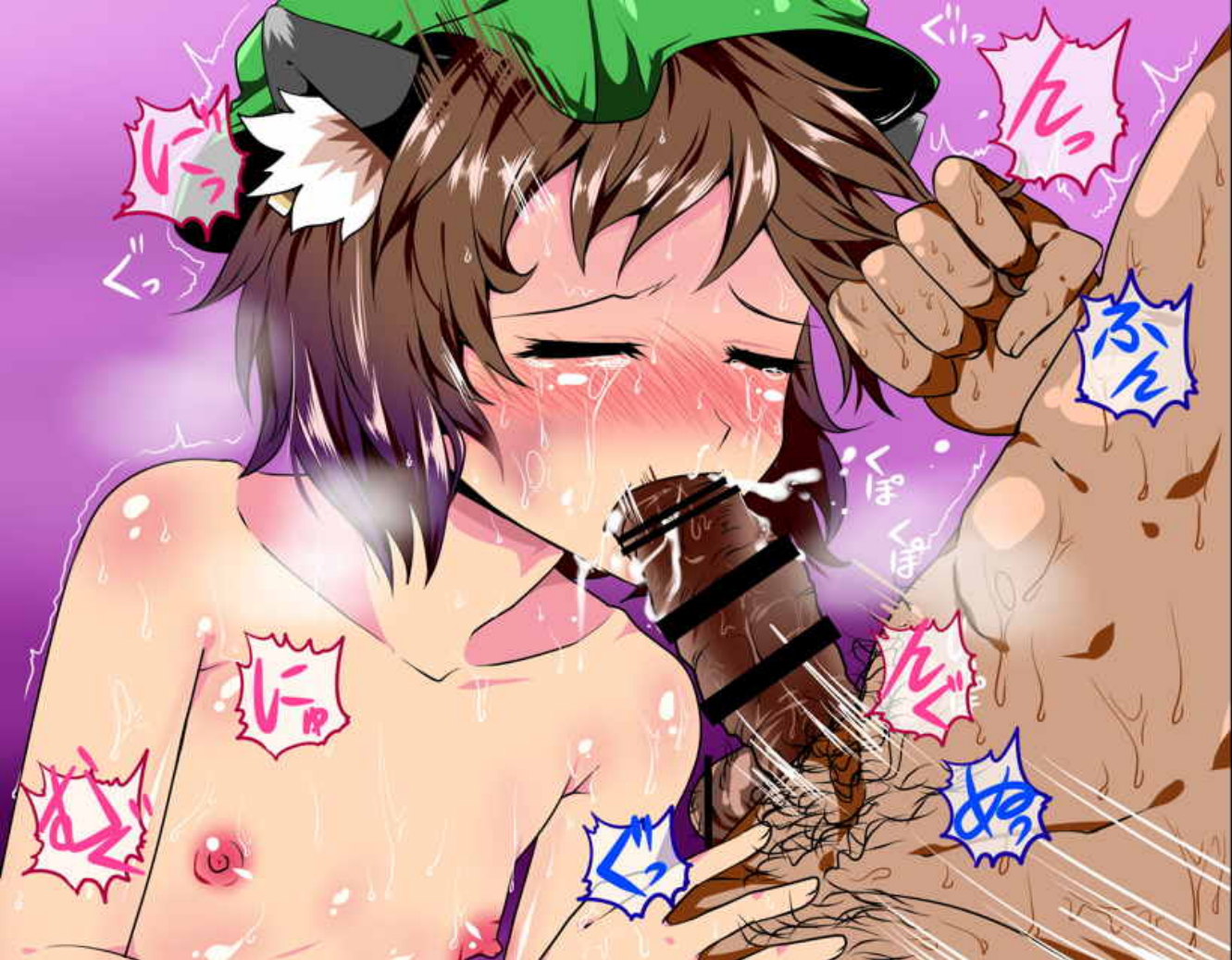
「はあはあ、ザーメンでボクのち○ぽが汚れちゃったから君の口ま○こで綺麗にしてよ...」





「はぐ」

「なんだって！ ボクの精子がそんなに臭いもんか！」



「ハアハア・・・ザラザラな舌がいい感じだW」

(藍しやまあ・・・助けてよお・・・!)



「デラフWWW 口ま〇こも犯しちゃったよ♪  
上も下もボクので真っ白だゾW」

(.....)

「ウヒヒw 森の泉で妖精を捕まえたゾ！  
ボクと大人のアソビをしようw」

「え？ な・・・何？」





「おやあー」

「氷の処女膜突破あ！」



「す…・凄いいw 中はヒンヤリ冷たいのに  
マジキモチイww」  
「あ…・アタイのま○こがあ…・…」



「これが、大人のアソビだよw 知ってたかな?w」  
「アタイ・・・馬鹿じゃないもん・・・」  
知ってるもん」







「ブヒw じゃあ次はフェラしてみようか?w」  
「え! これ知らない...!!」  
「アタイ知らないよう!」



「びくッと言わずに ほら食べるー!」  
「おへんっー!」



「口便器に精子イクよ？ ボクの精子！ イクよ！」  
(い……息できない……)



「あははw 氷の妖精に練乳かけちゃったw  
このままカキ氷にして食べちゃおうかなwww」  
「あ.....が.....っ.....」



「あ！ かわいいWWW  
この大人しそうで犯しやすそうだW  
「あ...人間...人間のち〇こ...」



「ではw 河童ちゃんの処女！ いただきますああす！  
……つて あれ？」

「やあんー！」



「なんだwにとりちゃんはもう体験済み  
だったんだねwもしかして今まで沢山の男に  
抱かれたのかな？このビッチ河童！」  
「そ...そんなこと ないもん...！」







「いっぱい中田氏したゾw これでボクの子どもを  
妊娠できるねw ウヒヒw」



「ほらw まだち○ぽのお掃除が残ってるよ！  
にとりちゃんは、経験者だから期待してるよw」  
「……………(おじいちゃん)」



「お口に届け！ ボクのペニス！」  
「はぐらー！」



「おお・・・おおww ンギモヂイ・・・!!  
口の中に吸い込まれるうううう!!」  
「この人激しすぎ・・・ 苦しう・・・!!」



「うはw 顔にかけすぎちゃったw ごめん♪」  
「下品なち○こ……」  
「もうこの人とはしたくないよう……」。



「うう……怖いよお だつてw  
ボク興奮してきちやったゾwww」  
「うう……怖いよお……」



「もつと怖がらせてあげるよ！  
ボクのち○ぽでね！」  
「嫌あああああ！」



「どうだい？ ボクのち○ぽの味は！  
ほらほらほら！ 美味しいだろ！」  
「痛い！痛い！おまたが痛いよ！ 抜いてよお！」





「いくゾー！この精子も味わってみてよww」  
「んんんっ!!」



「どうだいw ボクの精子! ごめんねw  
やっぱり臭かつ...」  
「精子...いい匂い...」  
「.....え?」



「せーしー！ せーしーもつとちようだい！」  
「うはwww フランちゃんがやる気になって  
ボク嬉しいなあ！」



「早く♪は・や・く♪」  
「お……おお！ キモチイ！  
キモチイよおおおおお！ フランちゃん！」



「あ……ああ！ 出る！出る！出るゾおおおおお！  
あああああああああ！」

「おめっ……」



「あははwwwwww せーしだw!  
せーし美味しいよお！」

「ハアハア・・・フランちゃんのお口が一生懸命だったから  
すぐイっちゃったよ・・・♪」



「な・・・何！ お兄ちゃん誰なの！」  
「興奮はしてきたけど ま〇こでエッチするの  
飽きてきたなあ・・・」



「デユフｗｗ そうだｗｗ」にぶい「こんであげるよー」  
「お・・・お尻の穴に！」







「そして容赦無くケツま〇こに  
中出しだよっ!」

「あは...! あっ...!」



「あれ？もしかしてケロちゃん  
お尻で感じてたのかい？まったく変態だなあw」  
「あゝん エッチ楽しいよお♪」



「はあはあ... ケロちゃんに美味しいものあげるよw  
ボクのち○ちん見ててね☆」  
「え？ 本当？楽しみ！ 早くちようだい♪」



「ほらほらWイクよ！出るよ！ケロちゃんの顔に  
発射するよおっ！」

（ワクワク！ ワクワク！）



「...」

「あ！」



「おろろW 間違えた！ こっちだ！ こっちW」

「しゅゆっ…… たまらない匂いするよおろ」

はあ……

あはっ……

あはっ……

ポタッ……

ビュルルッ……

